

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101
------	-----

自己評価

学校教育目標	障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献する児童生徒を育成する。
評価する領域・分野	寮務部（寄宿舎運営）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄宿舎運営について、概ね良好な結果が得られている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の一環として家庭や関係諸機関との連携を図り、日常生活を通して自主的な生活態度・習慣を身に付ける。 ・ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、予防策を講じながら以前のような活動を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当指導員を中心に全指導員で共通理解を図り、保護者や学級担任と連携をとりながら支援にあたる。 ・ 支援部が中心となって舎生が交流する機会を増やす。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に学舎懇談会を開き、共通理解を図るだけでなく、日々学級担任や保護者と連絡を取り合う。 ・ 寮祭や望年会、季節行事を計画する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援目標を達成することができたか。 ・ 行事終了後に指導員や舎生を対象に反省アンケートを行う。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学舎懇談以外にも精神面や体調面で変化がみられたときなどに、随時担任と連携を取り合って支援を行った。 ・ コロナ禍前の行事を実施し、指導員や舎生からよい評価を得られた。
評価の視点	評価
①学校と寄宿舎で連携を取り、共通の方針をもって支援にあてられたか。	A (B) C D
②舎生は行事を楽しみ、交流することができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
○コロナウイルスの位置づけが5類になり、行事等を通して以前のような舎生間の交流が見られた。 ▲舎生の卒業後の生活を考えると、余暇活動などを通して調理や外出などの活動も行っていく必要がある。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、舎生が交流できるよう行事等を積極的に実施する。 ・ 舎生の卒業後の進路を考慮しつつ、調理や外出など自立に向けた練習を行う。

学校関係者評価 （令和5年6月22日、11月3日、令和6年1月31日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も児童生徒数が減少していくことが予想される中で、盲学校の啓発活動、そして視覚に不安のある方々にどう支援していくかを学校と連携して検討していけるとよい。